

科目コード M-121	専門基礎分野 人体の構造と機能	単位数	必修 1単位
授業科目名	人体構造機能学1	時間数	30時間
担当教員	内海 眞子	開講時期	1年前期
授業概要			
看護の視点から人体を系統立てて学習し、人間の生活と関連づけ看護実践の基盤とする。			
到達目標			
1.人体の基本構造と各器官(身体支持と運動、消化吸収等)の機能を系統的に捉える為の力を養う。 2.人間の正常な構造・機能を学び、日常生活動作と関連させ、看護の対象を理解するための基礎知識を身につける。 3.系統解剖見学実習に参加し、人体の構造について解説できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	解剖生理学のための基礎知識	講義	教室1
第2回	身体支持と運動(骨格の形態と機能、骨の連結、骨格筋、筋の収縮)	講義	教室1
第3回	身体支持と運動(体幹の骨格と筋)	講義	教室1
第4回	身体支持と運動(上肢の骨格と筋)	講義	教室1
第5回	身体支持と運動(下肢の骨格と筋)	講義	教室1
第6回	身体支持と運動(頭頸部の骨格と筋)	講義	教室1
第7回	栄養と消化・吸収(口腔・咽頭・食道の構造と機能)	講義	教室1
第8回	栄養と消化・吸収(上部消化管の構造と機能)	講義	教室1
第9回	栄養と消化・吸収(下部消化管の構造と機能、腹膜)	講義	教室1
第10回	栄養と消化・吸収(膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能)	講義	教室1
第11回	外部環境からの防御(皮膚の構造と機能)	講義	教室1
第12回	外部環境からの防御(生体の防御機構)	講義	教室1
第13回	外部環境からの防御(生体の防御機構)	講義	教室1
第14回	外部環境からの防御(体温とその調節)	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護を学ぶ上で重要な内容です。動画教材で予習・復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)人体の構造と機能(1)解剖生理学 eナーストレーナー)ブックライブラリー:体の絵カニズム ビジュラン)生体のしくみ、目で見る解剖と生理		
受講要件・備考			

科目コード M-122	専門基礎分野 人体の構造と機能	単位数	必修 1単位
授業科目名	人体構造機能学2	時間数	30時間
担当教員	南和広域医療企業団医師	開講時期	1年前期
授業概要			
看護の視点から血液の循環とその調節、体液の調整と尿の生成、内蔵機能の調節について学習し、人間の生活と関連づけ看護実践の基盤とする。			
到達目標			
1.人体の基本構造((呼吸・血液・循環の調節・体液調節)と各器官、その機能を系統的に基礎知識を身につける。 2.人間の正常な構造・機能を理解し、日常生活動作と関連させ、看護の対象を理解するための基礎知識を修得する。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	呼吸と血液の働き(呼吸器の構造と機能)	講義	教室1
第2回	呼吸と血液の働き(呼吸運動の調節, ガス交換と運搬)	講義	教室1
第3回	呼吸と血液の働き(赤血球・白血球・血小板)	講義	教室1
第4回	呼吸と血液の働き(血漿タンパク質・血液凝固, 血液型)	講義	教室1
第5回	血液の循環とその調節(心臓の構造と機能)	講義	教室1
第6回	血液の循環とその調節(心臓の構造と機能)	講義	教室1
第7回	血液の循環とその調節(血管系の構造と機能 動脈)	講義	教室1
第8回	血液の循環とその調節(血管系の構造と機能 静脈)	講義	教室1
第9回	血液の循環とその調節(末梢循環の構造と機能)	講義	教室1
第10回	血液の循環とその調節(血液の循環と調節, リンパとリンパ管の循環)	講義	教室1
第11回	体液の調節と尿の生成(腎臓の構造と機能)	講義	教室1
第12回	体液の調整と尿の生成(排尿路の構造と機能, 後腹膜の器官)	講義	教室1
第13回	体液の調整と尿の生成(体液とホメオスターシス、体液の調節)	講義	教室1
第14回	生殖・発生と廊下のしくみ(男性生殖器)	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護を学ぶ上で重要な内容です。動画教材で予習・復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院) 人体の構造と機能(1)解剖生理学 eナーストレーナー)ブックライブラリー:体の絵カニズム ビジュラン)生体のしくみ、目で見る解剖と生理		
受講要件・備考			

科目コード M-123	専門基礎分野 人体の構造と機能	単位数	必修 1単位
授業科目名	人体構造機能学3	時間数	30時間
担当教員	内海 眞子	開講時期	1年後期
授業概要			
看護の視点から人体を系統立てて理解し、看護実践の基盤とする。			
到達目標			
1.人体の基本構造と各器官(内臓機能の調節、男性・女性生殖器等、情報と神経系)、その機能を系統的に理解する。 2.人間の正常な構造・機能を学び、看護の対象を理解するための基礎知識を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	内臓機能の調節(自律神経の調節)	講義	教室1
第2回	内臓機能の調節(内分泌系の調節)	講義	教室1
第3回	内臓機能の調節(全身の内分泌の構造と機能)	講義	教室1
第4回	内臓機能の調節(ホルモン分泌の調節)	講義	教室1
第5回	男性生殖器の構造と機能	講義	教室1
第6回	女性生殖器の構造と機能	講義	教室1
第7回	受精と胎児の発生	講義	教室1
第8回	受精と胎児の発生	講義	教室1
第9回	情報の受容と処理(神経系の構造と機能、脊髄の構造と機能、脊髄神経)	講義	教室1
第10回	情報の受容と処理(脳の構造と機能、脳神経)	講義	教室1
第11回	情報の受容と処理(脳の高次機能)	講義	教室1
第12回	情報の受容と処理(運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路)	講義	教室1
第13回	情報の受容と処理(眼・耳の構造と機能、味覚・嗅覚・疼痛)	講義	教室1
第14回	体表からみた人体の構造	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護を学ぶ上で重要な内容です。動画教材で予習・復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院) 人体の構造と機能(1)解剖生理学 eナーストレーナー)ブックライブラリー:体の絵カニズム ビジュラン)生体のしくみ、目で見る解剖と生理		
受講要件・備考			

科目コード M-124	専門基礎分野 人体の構造と機能	単位数	必修 1単位
授業科目名	人体構造機能学4:生化学	時間数	15時間
担当教員	本澤 真弓	開講時期	1年前期
授業概要			
生化学は人体の様々な生命現象を細胞レベル・分子レベルで解明する学問である。本講義では主要な生命現象の幾つかについて、精妙で巧緻な仕組みを学習する。遺伝と遺伝情報の基本的な発言の仕組み、生体成分とそれらの合成・分解などの代謝反応、多細胞生物におけるシグナル伝達の機構などを学修することによって、健康ならびに疾病発生のメカニズムの基礎知識を習得する。			
到達目標			
1. 遺伝情報の保存と発現の基本的な仕組みを説明できる。 2. 主要な生体成分の基本構造と生理作用及びそれらの代謝の概要を理解する。 3. 恒常性維持に不可欠なシグナル伝達の機構などを説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	オリエンテーション、細胞	講義	教室1
第2回	生体成分の構造と機能	講義	教室1
第3回	遺伝子と遺伝情報の保存と発現(1)	講義	教室1
第4回	遺伝子と遺伝情報の保存と発現(2)	講義	教室1
第5回	遺伝子と遺伝情報の保存と発現(3)	講義	教室1
第6回	シグナル(情報)伝達機構(1)	講義	教室1
第7回	シグナル(情報)伝達機構(2)	講義	教室1
第8回	総括 単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護を学ぶ上で重要な内容です。予習・復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	授業課題 15% 単位認定試験(筆記試験) 85%		
テキスト 参考書	医学書院)人体の構造と機能2 生化学 ビジュラン)目で見る生化学入門		
受講要件・備考	毎回の授業は、授業内容に密着した課題の積み重ねによって知識の定着を図ることができます。途中で投げ出さず、集中力と積極性をもって授業に臨んで下さい。		

科目コード M-124	専門基礎分野 人体の構造と機能	単位数	必修 1単位
授業科目名	栄養学	時間数	15時間
担当教員	南和広域医療企業団管理栄養士	開講時期	1年後期
授業概要			
人間にとっての栄養の意義を理解し、生命の維持に必要な栄養素のしくみを学習する。人間の健康維持・回復に向けた栄養の取り方等の基礎知識を養う。			
到達目標			
1. 人間にとっての栄養の意義・方法を説明できる。 2. 健康と食生活及び栄養管理の基礎知識を修得する。 3. ライフステージと健康教育について解説できる。 4. 疾病の予防・改善、回復のために必要な指導内容を意欲的に考える姿勢を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	人間栄養学と看護・栄養素の種類と働き	講義	教室1
第2回	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義	教室1
第3回	エネルギー代謝	講義	教室1
第4回	食事と食品・栄養ケア・マネジメント	講義	教室1
第5回	栄養状態の評価・判定	講義	教室1
第6回	ライフステージと栄養	講義	教室1
第7回	臨床栄養・健康づくりと食生活	講義	教室1
第8回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護を学ぶ上で重要な内容です。動画教材で予習・復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)栄養学 ビジュアル)やさしい栄養学		
受講要件・備考			

科目コード M-131	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	病理学	時間数	15時間
担当教員	畠山 金太	開講時期	1年後期
授業概要			
生体機構学、生化学、微生物学の知識を土台に、炎症、循環障害、腫瘍など臓器の違いを超え共通してみられる疾病の原因と成り立ちを学習する。診断方法・治療に関する基本的な考え方を学び、疾病と治療の学習につなげる。			
到達目標			
1. 病理学の概要を学び、炎症、循環障害、腫瘍の基礎的な知識を身につける。 2. 健康を維持するための生体の回復過程及び疾病の原因、疾病の成り立ち、病態の基礎概念を理解する。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	病理学で学ぶこと、細胞・組織の障害と修復、炎症	講義	教室1
第2回	免疫、移植と再生医療	講義	教室1
第3回	感染症	講義	教室1
第4回	循環障害	講義	教室1
第5回	代謝障害	講義	教室1
第6回	老化と死、先天異常と遺伝子異常	講義	教室1
第7回	腫瘍、生活習慣と環境因子による生体の障害	講義	教室1
第8回	単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
疾患を理解する基礎となる重要な内容です。動画教材で予習・復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院) 疾病の成り立ちと回復の促進1(病理学) ビジュアル) 目で見る病気		
受講要件・備考			

科目コード M-132	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	病態と看護	時間数	30 時間
担当教員	木元 貴祥	開講時期	2年前期
授業概要			
人体の正常な構造と機能が破綻することにより、症状や疾病が引き起こされる経過を学習する。 症状・苦痛の緩和につながる看護を考え、実践につなげるための基礎知識を身につける。			
到達目標			
1. 主要な症候の理解のために解剖生理学などの基礎知識を活用することができる。 2. 症候の原因や、症状、発症のメカニズムが解説できる。 3. 症候の原因や、症状、発症のメカニズムの知識が、予防や緩和を目指す看護につながることを意欲的に考える姿勢を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	病態生理学を学ぶための基礎知識	講義	教室2
第2回	皮膚・体温の調節のしくみと基礎知識	講義	教室2
第3回	免疫のしくみと病態生理	講義	教室2
第4回	体液調節のしくみと病態生理	講義	教室2
第5回	血液のはたらきと病態生理	講義	教室2
第6回	循環のしくみと病態生理	講義	教室2
第7回	呼吸のしくみと病態生理	講義	教室2
第8回	呼吸のしくみと病態生理	講義	教室2
第9回	消化・吸収のしくみと病態生理	講義	教室2
第10回	腎・泌尿器のしくみと病態生理	講義	教室2
第11回	内分泌・代謝のしくみと病態生理	講義	教室2
第12回	生殖のしくみと病態生理	講義	教室2
第13回	脳・神経、筋肉のはたらきと病態生理	講義	教室2
第14回	感覚器のはたらきと病態生理	講義	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
疾患を理解し看護を実施するために重要な科目です。既習内容を復習し、根気よく学習していきましょう。動画教材を使用しながら理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	課題レポート、筆記試験等を総合的に評価する。評価割合は授業で示す。		
テキスト 参考書	医学書院) 疾病の成り立ちと回復の促進2: 病態生理学 ビジューン) 生体のしくみ、看護のための病態生理とアセスメント		
受講要件・備考			

科目コード M-131	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	薬理学	時間数	30時間
担当教員	南和広域医療企業団薬剤師	開講時期	1年後期
授業概要			
健康回復・維持のための薬理の意義を理解し、薬物の生体への影響を学習する。薬物の作用機序・特徴・副作用を理解し、看護の対象に必要な援助ができるための基礎知識を養う。			
到達目標			
1. 薬と毒、化学物質の安全性と危険性の基礎知識を身につける。 2. 薬物の体内への吸収・体内での循環・体外への排泄について説明できる。 3. 薬物の作用機序と影響について解説できる。 4. 薬物療法をうける対象の特徴を捉えるための力を養う。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	薬理を学ぶにあたって、薬理学の基礎知識	講義	教室1
第2回	抗感染症薬	講義	教室1
第3回	抗がん薬	講義	教室1
第4回	免疫治療薬	講義	教室1
第5回	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	教室1
第6回	末梢での神経活動に作用する薬物	講義	教室1
第7回	中枢神経に作用する薬物	講義	教室1
第8回	循環器系に作用する薬物	講義	教室1
第9回	循環器系に作用する薬物	講義	教室1
第10回	呼吸・消化器・生殖系系に作用する薬物	講義	教室1
第11回	呼吸・消化器・生殖系系に作用する薬物	講義	教室1
第12回	皮膚科用薬・眼科用薬	講義	教室1
第13回	救急の際に使用される薬物	講義	教室1
第14回	漢方薬・消毒薬	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
生化学の復習をして臨みましょう。内容を理解するため、授業後に復習を必ず行いましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院) 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 ビジュラン) 薬の基礎知識		
受講要件・備考			

科目コード M-134	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	臨床薬理学	時間数	15時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団認定看護師	開講時期	2年前期
授業概要			
1年時に履修した薬理学の基礎知識をもとに、治療を受ける対象の薬理について学び、看護実践につなげる。			
到達目標			
1. 薬と毒、化学物質の安全性と危険性について説明できる。 2. 薬物の体内への吸収・体内での循環・体外への排泄について説明できる。 3. 薬物の作用機序と影響について説明できる。 4. 薬物療法をうける対象の特徴と看護について意欲的に考える姿勢を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	薬物治療の基礎	講義・演習	教室2
第2回	薬物治療の基礎	講義・演習	教室2
第3回	対症療法の臨床薬理学	講義	教室2
第4回	特定の行為による臨床薬理学1	講義	教室2
第5回	特定の行為による臨床薬理学2	講義	教室2
第6回	特定の行為による臨床薬理学3	講義	教室2
第7回	特定の行為による臨床薬理学4	講義	教室2
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
薬理学、診療補助技術等の既習内容を復習して臨みましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院) 臨床薬理学		
受講要件・備考			

科目コード M-135	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	微生物学・臨床検査	時間数	30時間
担当教員	南和広域医療企業団臨床検査技師	開講時期	1年後期
授業概要			
感染症を引き起こす微生物の種類、性質、特徴について学習する。とくに感染を起こす要因、メカニズムについて学習し生体における防御機構について理解する。臨床検査に関する基礎知識を学習し、検査の目的や基準値を理解したうえでアセスメントし、看護の対象に必要な援助ができるための基礎知識を養う。			
到達目標			
1. 感染症の起因微生物の特徴、感染症に対する基本的な対応に関する基礎知識を身につける。 2. 病原微生物による生体への影響、薬剤耐性を説明する。 3. 臨床検査の意義を理解し、検査物の取り扱いの基本を身につける。 4. 対象のアセスメントを行うための基礎知識を修得する。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	微生物と微生物学・細菌の性質	講義	教室1
第2回	真菌の性質・原虫の性質・ウィルスの性質	講義	教室1
第3回	感染と感染症・感染に対する生体防御機構	講義	教室1
第4回	感染源・感染経路から見た感染症、滅菌と消毒	講義	教室1
第5回	感染症の検査と診断・感染症の治療、感染症の現状と対策	講義	教室1
第6回	感染症の検査と診断・感染症の治療、感染症の現状と対策	講義	教室1
第7回	病原細菌と細菌感染症、病原真菌と真菌感染症	講義	教室1
第8回	病原原虫と原虫感染症、病原ウィルスとウィルス感染症	講義	教室1
第9回	臨床検査とその役割	講義	教室1
第10回	主な臨床検査、一般検査、血液学的検査	講義	教室1
第11回	化学検査、免疫・結成学的検査	講義	教室1
第12回	内分泌学的検査微生物学的検査	講義	教室1
第13回	病理学的検査	講義	教室1
第14回	生理機能検査	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護に必要な感染について学びます。毎回復習をして理解・定着を目指しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)疾病のなりたちと回復の促進4 微生物 医学書院)別巻 臨床検査 ビジュラン)目で見える微生物、目で見える臨床検査		
受講要件・備考			

科目コード M-136	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	疾病論1	時間数	30時間
担当教員	南和広域医療企業団医師	開講時期	1年後期
授業概要			
人体構造機能学・栄養学・微生物学・臨床検査・薬理学・病理学の知識をもとに、呼吸器・循環器・感覚器系に障害をもつ対象の病理的状态及び検査・治療について学習する。観察の視点、看護実践の判断力につなげる基盤とする。			
到達目標			
1. 内科的治療(化学療法・内視鏡治療・放射線療法)に関する基礎的な知識を身につける。 2. 主な呼吸器に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する基礎的な知識を身につける。 3. 主な循環器・血液・造血器・リンパに障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する基礎的な知識を身につける。 4. 腎・泌尿器系に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する基礎的な知識を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	画像診断	講義	教室1
第2回	画像診断・放射線治療	講義	教室1
第3回	呼吸器系疾患の症状とその病態生理	講義	教室1
第4回	呼吸器系疾患の診断・検査・治療と処置	講義	教室1
第5回	呼吸器系の主な感染症(インフルエンザ、肺炎、結核等)	講義	教室1
第6回	呼吸器系の主な疾患(慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍等)	講義	教室1
第7回	循環器系疾患の構造と機能、症状とその病態生理	講義	教室1
第8回	循環器系疾患の診断・検査・治療と処置	講義	教室1
第9回	循環器系の主な疾患(虚血性心疾患、心不全、血圧異常等)	講義	教室1
第10回	循環器系の主な疾患(弁膜疾患、動脈、下肢静脈瘤等)	講義	教室1
第11回	腎・泌尿器疾患の主な症状及び病態生理	講義	教室1
第12回	腎・泌尿器疾患の診断・検査・治療(透析含む)と処置	講義	教室1
第13回	腎・泌尿器疾患(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全)	講義	教室1
第14回	腎・泌尿器疾患の疾患(腎・膀胱腫瘍、前立腺癌等)	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
構造機能学、病理学の知識が必要です。復習・予習を行うことが理解と定着を助けます。興味を持ち学習を進めていきましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点 画像診断・放射線治療10点、呼吸器疾患30点、循環器疾患30点、腎・泌尿器疾患30点		
テキスト 参考書	医学書院) 別巻 臨床放射線医学 ビジュラン:画像医学の知識と技術 成人看護学2 呼吸器、成人看護学3 循環器、成人看護学9 腎・泌尿器 ビジュラン)目で見える病気、病気の成因・病態と治療		
受講要件・備考			

科目コード M-137	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	疾病論2	時間数	30時間
担当教員	南和広域医療企業団医師	開講時期	1年後期
授業概要			
人体構造機能学・栄養学・微生物学・臨床検査・薬理学・病理学の知識をもとに、消化内分泌系に障害をもつ対象の病状状態及び検査・治療について学習する。観察の視点、看護実践の判断力につなげる基盤とする。			
到達目標			
1. 内科的治療(化学療法・内視鏡治療・放射線療法)に関する知識を身につける。 2. 消化・吸収・代謝機能・乳房に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。 3. 主な内分泌・免疫機能に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。 4. 脳・神経機能に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	内科的治療	講義	教室1
第2回	肝臓膵臓胆嚢胆管系疾患の診断・検査・治療と処置	講義	教室1
第3回	肝臓膵臓胆嚢胆管系の主な疾患(肝炎、肝硬変、肝臓癌)	講義	教室1
第4回	肝臓膵臓胆嚢胆管系の主な疾患(胆管胆嚢癌、膵炎等)	講義	教室1
第5回	消化器系疾患の症状とその病態生理	講義	教室1
第6回	消化器系疾患の診断・検査・治療と処置	講義	教室1
第7回	消化器系疾患の主な疾患(食道癌、胃癌、十二指腸潰瘍)	講義	教室1
第8回	消化器系疾患の主な疾患(大腸癌、潰瘍性大腸炎)	講義	教室1
第9回	乳房の主な疾患(乳がん)	講義	教室1
第10回	代謝疾患(糖尿病)	講義	教室1
第11回	血液・造血器疾患(貧血、白血病、リンパ腫等)	講義	教室1
第12回	血液・造血器疾患(貧血、白血病、リンパ腫等)	講義	教室1
第13回	脳・神経疾患(脊髄疾患、末梢神経障害、筋疾患、神経、筋接合部疾患)	講義	教室1
第14回	脳・神経疾患(脱髄、変性疾患、脳神経・感染症、てんかん)	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
人体構造機能学、病理学の知識が必要です。復習・予習を行うことが理解と定着を助けます。興味を持ち学習を進めていきましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点 (消化器内科的治療30点、消化器外科的治療40点、血液疾患15点、脳神経内科15点)		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護学5 消化器 成人看護学6 内分泌・代謝 成人看護学4 血液・造血器 成人看護学7 脳・神経、別巻臨床外科看護各論 ビジュラン)目で見える病気、病気の成因・病態と治療		
受講要件・備考			

科目コード M-138	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	疾病論3	時間数	15時間
担当教員	南和広域医療企業団医師	開講時期	2年前期
授業概要			
人体構造機能学・栄養学・微生物学・薬理学・病理学の知識をもとに、脳神経系・運動器系に障害をもつ対象の病理的状態及び検査・治療について学習する。観察の視点・看護実践の判断力につなげる基盤とする。			
到達目標			
1. 脳・神経機能に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。 2. 運動器系に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	脳・神経系の機能障害の症状とその病態生理	講義	教室2
第2回	脳・神経系疾患の診断・検査・治療と処置	講義	教室2
第3回	脳神経外科の主な疾患(脳血管障害)	講義	教室2
第4回	脳神経外科の主な疾患(脳腫瘍、頭部外傷等)	講義	教室2
第5回	運動器系疾患の主な症状とその病態生理	講義	教室2
第6回	運動器系疾患の主な診断・検査・治療と処置	講義	教室2
	運動器系疾患の主な疾患(外傷性の運動器疾患)	講義	教室2
第7回	運動器系疾患の主な疾患(内因性の運動器疾患)	講義	教室2
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
人体構造機能学、病理学の知識が必要です。復習・予習を行うことが理解と定着を助けます。興味を持ち学習を進めていきましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点(脳神経外科50点、運動器系疾患50点)		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護7 脳神経 成人看護10 運動器 ビジュラン)目で見える病気、病気の成因・病態と治療		
受講要件・備考			

科目コード M-139	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	疾病論4	時間数	30時間
担当教員	南和広域医療企業団医師	開講時期	2年前期
授業概要			
人体構造機能学・栄養学・微生物学・薬理学・病理学の知識をもとに、小児特有の疾患・女性生殖器疾患、分娩の異常、感覚器系疾患等について学習する。			
到達目標			
1. 小児に特有に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。 2. 女性生殖器疾患および妊娠・分娩・産褥期に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。 3. 腎・泌尿器系に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	女性生殖器疾患の主な症状及び病態生理、診断・検査・治療	講義	教室2
第2回	女性生殖器疾患の主な疾患(卵巣癌、子宮癌、感染症)	講義	教室2
第3回	妊娠の異常(不妊症、妊娠中の異常、合併症妊娠)	講義	教室2
第4回	分娩の異常	講義	教室2
第5回	産褥の異常	講義	教室2
第6回	小児特有の疾患(染色体異常、新生児疾患)	講義	教室2
第7回	小児特有の疾患(感染症)	講義	教室2
第8回	小児特有の疾患(循環器疾患・腎疾患・川崎病)	講義	教室2
第9回	小児特有の疾患(呼吸器疾患・消化器疾患)	講義	教室2
第10回	小児特有の疾患(アレルギー、代謝内分泌、熱性けいれん等)	講義	教室2
第11回	皮膚疾患:症状、病態生理、検査、治療、主な疾患	講義	教室2
第12回	眼疾患:症状、病態生理、検査、治療、主な疾患	講義	教室2
第13回	耳鼻咽喉科疾患:症状、病態生理、検査、治療、主な疾患	講義	教室2
第14回	アレルギー・膠原病・感染症:症状、病態生理、検査、治療、主な疾患	講義	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
人体構造機能学、病理学の知識が必要です。復習・予習を行うことが理解と定着を助けます。興味を持ち学習を進めていきましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点(女性生殖器・妊娠・分娩50点、小児疾患50点)		
テキスト 参考書	医学書院)成人看護9 女性生殖器 母性看護学各論 小児看護学各論 成人看護学10皮膚 成人看護11 眼 成人看護12 耳鼻咽喉科 成人看護学11 アレルギー・膠原病		
受講要件・備考			

科目コード M-141	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	疾病論5	時間数	15時間
担当教員	南和広域医療企業団医師	開講時期	2年前期
授業概要			
人体構造機能学・栄養学・微生物学・薬理学・病理学の知識をもとに、精神疾患の理解、内科的治療・外科的治療・麻酔について学ぶ。			
到達目標			
1. 精神に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。 3. 麻酔・外科的治療をうける対象の特徴に関する知識を身につける。 3. 主な感覚器に障害をもつ対象の疾病の原因・症状・診断と治療に関する知識を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	精神機能障害の主な症状と病態生理、診断検査治療	講義	教室2
第2回	精神疾患(統合失調症、気分障害)	講義	教室2
第3回	精神疾患(パニック障害、強迫性障害、摂食障害)	講義	教室2
第4回	精神の疾患(パーソナリティ障害、精神発達遅延、認知症)	講義	教室2
第5回	外科的治療を支える分野:麻酔法1	講義	教室2
第6回	外科的治療を支える分野:麻酔法2	講義	教室2
第7回	外科的治療を支える分野:呼吸管理・体液管理	講義	教室2
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
人体構造機能学、病理学の知識が必要です。復習・予習を行うことが理解と定着を助けます。興味を持ち学習を進めていきましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点(精神疾患50点、麻酔50点)		
テキスト 参考書	医学書院)精神疾患の基礎 別巻 臨床看護総論 ビジュラン)精神疾患・障害の基礎知識		
受講要件・備考			

科目コード M-142	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	単位数	必修 1単位
授業科目名	リハビリテーション	時間数	15時間
担当教員	南和広域医療企業団理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	開講時期	2年前期
授業概要			
人体構造機能学・栄養学・微生物学・薬理学・病理学の知識をもとに、脳神経系・運動器系・感覚器系の障害をもつ対象の病理的状態及び検査・治療について学習する。観察の視点・看護実践の判断力につなげる基盤とする。			
到達目標			
1. リハビリテーションを必要とする対象とその目的・方法を捉えるための力を養う。 2. リハビリテーションの主要な病態への援助方法について意欲的に考える姿勢を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☒ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☐ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	リハビリテーション概論	講義	教室2
第2回	運動器系の障害とリハビリテーション	講義	教室2
第3回	中枢神経の障害とリハビリテーション 脊髄損傷)	講義	教室2
第4回	呼吸器リハビリテーション	講義	教室2
第5回	循環器リハビリテーショ	講義	教室2
第6回	リハビリテーション演習(関節可動域測定、筋力強化訓練)	校内実習	基礎看護学実習室
第7回	リハビリテーション演習(移動動作の支援、ADL評価法)	校内実習	基礎看護学実習室
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
人体構造機能学、病理学の知識が必要です。復習・予習を行うことが理解と定着を助けます。移動の援助が習得できるように練習を繰り返しましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)別巻リハビリテーション看護 ビジュアル)リハビリテーション医学		
受講要件・備考			

科目コード M-143	専門基礎分野 健康の支援と社会保障制度	単位数	必修 1単位
授業科目名	保健医療論1:生命倫理と医療の倫理	時間数	15時間
担当教員	福岡 篤彦	開講時期	1年前期
授業概要			
医療倫理を概観し、看護の立場からその問題を理解し、生命の尊厳を守るための看護職としての考え方や態度を身につける。			
到達目標			
1. 将来医療を実践する心構え、生命を尊ぶ心、死を悼む心、健やかに生きること、穏やか死ぬことを考える。 2. 医療倫理について概観し、倫理的諸問題に対して医療に従事する立場からどのように考え行動するのかを考え、表現する。 3. 脳死と臓器移植や生殖技術と倫理など生命の尊厳性に関する諸問題を学習し、将来において直面するであろう倫理的諸問題について考える。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☒ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☐ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☒ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	生きることと死ぬこと	講義	教室1
第2回	倫理学の基本的な考え方、医療倫理の基本的な考え方	講義	教室1
第3回	生命倫理とは	講義	教室1
第4回	性と生殖の生命倫理	講義	教室1
第5回	死の生命倫理	講義	教室1
第6回	先端医療制度をめぐる生命倫理	講義	教室1
第7回	現代医療の最前線と新たな課題	講義	教室1
第8回	単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
医療に従事する人として必要な倫理について学ぶ重要な科目です。しっかりと考え課題に取り組み、倫理的センスを磨きましょう。			
成績評価方法	レポート課題、筆記試験		
テキスト 参考書	医学書院)健康支援と社会保障制度1 医療概論 医学書院)別巻 看護倫理 総合医療論		
受講要件・備考			

科目コード M-144	専門基礎分野 健康の支援と社会保障制度	単位数	必修 1単位
授業科目名	保健医療論2	時間数	15時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
現代社会における保健・医療・福祉の位置づけと医療の現状と課題を学び、看護職としての社会貢献の必要性を理解する。			
到達目標			
1. 現代社会における医療の現状と課題に対する提言ができる。 2. 看護を学ぶ学生として、倫理的なものの見方や考え方を身につける基礎とする。 以下の4点を、看護師となっても反復し学習できるための基本とする。 ①倫理的課題に「気づく」②倫理的課題を分析するための「手がかり」を見つけられる。 ③倫理的課題解決のための行動を考えられる。④倫理的課題解決のための「対話」を行うことができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☒ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☐ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☒ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	看護倫理について考える(1)	講義	教室1
第2回	看護倫理について考える(2)	講義	教室1
第3回	倫理理論と倫理原則	講義	教室1
第4回	倫理的感性を養う	講義	教室1
第5回	「看護職の倫理綱領」を理解する	講義	教室1
第6回	看護実践上の倫理的概念	講義	教室1
第7回	保健・医療・介護	講義	教室1
第8回	単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護専門職としての倫理観を醸成します。ヒューマンケアを実践していくうえで重要な内容です。			
成績評価方法	出席状況、筆記試験を総合的に評価する。評価割合は授業で示す。		
テキスト 参考書	医学書院) 別巻 看護倫理 別巻 総合医療論 ビジュラン) 事例で学ぶ看護倫理		
受講要件・備考			

科目コード M-145	専門基礎分野 健康の支援と社会保障制度	単位数	必修 1単位
授業科目名	公衆衛生学	時間数	15時間
担当教員	上田 晴美	開講時期	2年後期
授業概要			
健康の維持・増進、疾病の予防のため、対象を取り巻く環境、社会の影響を知り、また衛生統計からその地域の健康要因を把握し、公衆衛生の必要性を学習する。公衆衛生活動の実際を学び、保健・医療・福祉のチームの一員として連携の必要性を理解する。			
到達目標			
1. 衛生統計から環境・社会が健康に影響を及ぼす要因を学び、基礎的な知識を修得する。 2. 地域における実際の公衆衛生活動を知り、保健・医療・福祉の一員として看護の役割を意欲的に考える姿勢を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☐ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☒ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	公衆衛生の概念、健康と環境、疫学的方法	講義	教室2
第2回	健康の指標	講義	教室2
第3回	感染症とその予防	講義	教室2
第4回	食品保健と栄養、生活環境の保全	講義	教室2
第5回	地域保健活動、母子保健、学校保健	講義	教室2
第6回	生活習慣病、健康教育とヘルスプロモーション	講義	教室2
第7回	難病対策、精神保健福祉、産業保健	講義	教室2
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
看護職が公衆衛生を学ぶ意義を理解し、集団や個人の健康を守る公的責任と看護者としての役割を考えながら取り組みましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 メディックメディア)公衆衛生がみえる ビジュラン:目で見る公衆衛生		
受講要件・備考			

科目コード M-146	専門基礎分野 健康の支援と社会保障制度	単位数	必修 1単位
授業科目名	社会福祉学1	時間数	15時間
担当教員	三宅 浩	開講時期	2年後期
授業概要			
現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向を知り、社会保障制度の目的と機能を学習する。医療保障制度・介護保障制度・所得保障制度・公的扶助のそれぞれの特徴および仕組みを理解する。			
到達目標			
1. 社会保障・社会福祉の動向を学び、その目的と機能に関する基本的な知識を身につける。 2. 社会保障制度の特徴および仕組みに関する基礎知識を身につける理解する。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☐ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☒ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	社会保障制度と社会福祉	講義	教室2
第2回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義	教室2
第3回	医療保障	講義	教室2
第4回	医療保障	講義	教室2
第5回	介護保障	講義	教室2
第6回	所得保障	講義	教室2
第7回	公的扶助	講義	教室2
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
医療と福祉の関連をしっかりと学び、看護師にとって医療保障、介護保障の制度は看護師にとって専門的な知識が求められ、国家試験にも多く出題されます。理解と定着できるように取り組みましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉		
受講要件・備考			

科目コード M-147	専門基礎分野 健康の支援と社会保障制度	単位数	必修 1単位
授業科目名	社会福祉学2	時間数	15時間
担当教員	三宅 浩	開講時期	3年前期
授業概要			
社会福祉サービスである高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉を学び、保健・医療・福祉の関連および職種間での連携の必要性を理解する。			
到達目標			
1. 社会福祉サービスの実際、対象に応じた援助方法を学び、保健・医療・福祉のチームの一員としての看護の役割を理解する。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☐ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☒ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	社会福祉の分野とサービス	講義	教室3
第2回	社会福祉の分野とサービス	講義	教室3
第3回	社会福祉の分野とサービス	講義	教室3
第4回	社会福祉実践と医療・看護	講義	教室3
第5回	社会福祉実践と医療・看護	講義	教室3
第6回	社会福祉実践と医療・看護	講義	教室3
第7回	社会福祉の歴史	講義	教室3
第8回	単位認定試験	試験	教室3
準備学習等			
医療と福祉の関連をしっかりと学び、看護師にとって医療保障、介護保障の制度は看護師にとって専門的な知識が求められ、国家試験にも多く出題されます。理解と定着できるように取り組みましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉		
受講要件・備考			

科目コード M-148	専門基礎分野 健康の支援と社会保障制度	単位数	必修 1単位
授業科目名	看護関連法規	時間数	15時間
担当教員	専任教員、事務長、非常勤講師	開講時期	2年後期
授業概要			
法の概念、看護に関連する法令の特徴を理解し、看護職者としての基礎知識を身につける。			
到達目標			
1. 法の概念を学び、看護職員に関する法律に関する基礎的な知識を身につける。 2. 看護の対象に関連する法令を学び、関連職種の役割について意欲的に考える姿勢を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している ☐ 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている ☐ 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている ☒ 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている ☒ 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	法の概念	講義	教室3
第2回	看護法	講義	教室3
第3回	医事法・保健衛生法	講義	教室3
第4回	薬務法	講義	教室3
第5回	社会保険法	講義	教室3
第6回	年金(社会保険事務所)	講義	教室3
第7回	労働法と社会基盤整備、環境法	講義	教室3
第8回	単位認定試験		教室3
準備学習等			
看護に関係する法律と制度の国家試験の出題が増加しています。理解と定着を目指し、学習に取り組みましょう。			
成績評価方法	筆記試験100点		
テキスト 参考書	医学書院)健康支援と社会保障制度4 看護関連法規		
受講要件・備考			